

本邦騎兵用法論

本邦の騎兵用法に關しては、未だ戰時編制条規の確定せざると、戰役上の經驗少なき為め、一定の方針を定むることを困難なりとす。現行操典並に野外要務令に就て研究するも、同じく精確に之を断定すること能はず。是れ多年国内戰を基礎とせし結果に他ならず。

騎兵の盛衰は古來より屢々變遷しばしばを來せしと雖も、其隆盛を極めしは、多くは用兵上に卓絶せる名将出でし時にあり。之を歴史に徴するに、成吉思汗チンギスハーン、亞歷山アレキサンダー、フレデリック大王、拿破崙ナポレオン一世、近時モルトケ大將の如き、騎兵の教育及其用法に深く意を用ひたり。是れ戰略上の勝利を全うするは騎兵に超ゆべき他の兵種なければなり。

我國に於ける騎兵は、其進歩非常に遲滞し、言ふ可からざるの悲境にありて、其編成典範すら、屢々動揺し、從て其用法上に就ても、確定の方針を定むること能はず。然れども二十七、八年戰役以來、軍備の拡張に伴い、我騎兵にも大に变革を來す時期に際会せり。今遂に他國と平和を破る患なしと雖も、靜心熟慮、宇内の大勢に鑑み、隣邦の兵力、其他を考究し來れば、騎兵の進歩を企図するは、刻下の最大急務なりとす。

強兵を以て名のある普國は、戰勝に傲らず、騎兵戰術の未だ完全ならざるを確認し、今やフレデリック大王の遺訓を再興し、騎兵の馬術を奨励し、用兵上の學識を増進せしむるに深く注意し、大に騎兵用法上に变革をなせり。大王は騎兵の奨励に最も意を用い、騎兵將校にして日々厩舎を巡視せざるもの、日曜日と雖も乗馬をなさざるものは嚴罰に処し、又乗馬學校を各所に設立し、馬術を奨励し、且つ騎兵の青年將校は、他兵科の上長官よりも用兵上の學識を有しせざる可からずとし、其學業を督励するや、實に至れり盡つくせり、名将の訓戒は、諸君と共に學術研究上の基礎となさざるべからず。

本邦には未だ騎兵の名將なし。蓋し無けだきを哀れむを要せず、無きが至當なればなり。歐洲諸國と雖も、幾百年來、幾千の騎兵將校ありと雖も、眞の騎兵名將と稱すべきものは、實に僅々一、二に過ぎず。騎兵良將校たるは難しとす。

彼の一敗地に塗りし仏國も、七十年戰以來普國の編制条規に模倣せしが、近時に至り、漸次昔時ナポレオン帝の施行せし

戰術的に於ける騎兵戰術を、再び採用せんとするの傾向ありて、敵国をして多少危懼の念を生ぜしむるに至れり。然れども騎兵の本旨とする所は、昔時と多少異なる所あり。昔時は騎兵を主として本戦に用ひ、彼我兩軍決戦の用に供せしと雖も、今日に於ける騎兵用法上の目的は、全く作戰地境を専制するを第一の要務となし、其本戦に參與するを決戦攻撃、追撃、退却援護の如き特別の場合とせり。故に欧州騎兵の第一任務とする所は、敵を発見するまで搜索を為し、敵騎兵に遭遇せば、之を擊攘蹂躪して滅亡に至らしむるを、確乎不拔の定義とし、此一事は死を誓へるの決闘にして、一意断行苟も猶予躊躇することなく、断乎としてとして決行す可きものとせり。是れ勝者は作戰地境を専制し、本軍をして充分の勝算を以て、利を戦場に擅ほんまにするを得せしめんが為なり。

以上は殆んど一般の定論にして、「軍其の為す所を知らば必ず勝つ」との金言を、騎兵の責務とせしに過ぎず。

猶ほ騎兵は以上の任務を遂げらば、其任務尽きたりやと言ふに、決して然らずとす。現時に於て欧州諸国各兵訓練の度は殆んど同一の程度にあるを以て、彼我勝敗の決する所は、作戰計画の良否に最大關係をなすものとす。若し騎兵をして敵の動員を妨害し、倉庫を焼夷し、電線を切断し、鐵道を破壊して、以て敵軍の作戰計画を妨害するを得ば、全軍の勝敗に至大の影響を及ぼすものとす。現時欧州諸国非常の大軍を用ゆるに至りしを以て、其集中に関する作戰計画は極めて至難なりとす。若し騎兵にして敵の最も至難とする作戰計画を妨害するを得ば、本軍をして勝利の基を開かしむるを得べし。

欧州諸国が今日其槍騎兵、胸甲騎兵を増加して、其戦力を増大するは、多くは前述の理由に基けるが如し。

然れども軍備は、自国並に隣国の状況に基くものにして、従て各兵種の用法を多少異なる所なかるべからず。今や露国は騎兵を拡張して二十四師団に至らしめ、其亜細亞地方に駐在せしむるものを、三師団に至らしめんとせり。運輸交通の便未だ開けずと雖も、遠からずして東部亜細亞に於て此三師団（十八連隊）を運用し得るに至らん。

往年帖木兒、鐵木眞等の滿州より起こり、欧州に進入せし事跡より判断するも、大兵の運用困難なりとして、断じて安意すべからず。今や隣国に対し、本邦騎兵の戦時編制は如何に増大すべきや、其馬匹武器は如何に改良すべきや、其教育は如何なる方法を以てすべきやに就ては、議論極めて多しと雖も、本論の主旨に非ざるを以て、主として本邦現時の典令に準拠

し騎兵の用法を論ぜんとす。

第一 搜索勤務

今日に至つては、本邦と雖も大軍を使用するの時世に会せしを以て、騎兵の搜索上にも軍を基礎とせざるを得ざる場合多し。然るに戦時に當り本邦の騎兵は、軍の各師団に属する騎兵を集合して、軍の搜索騎兵を編成するを常則となすか、或は師団に属して、師団の搜索騎兵となすを定規とするか、此事に関しては未だ確定の方針なきが如し。

若し搜索騎兵を師団に専属する時は、軍は師団の報告を持って始めて作戦計画を定め、軍の命令を作為せざる可からず。二十七、八年の戦役に於て、第二軍は旅順攻撃に際し、臨時に第一、第六師団の騎兵を合して搜索騎兵を編成せり。是れ作戦計画を定むるために已むを得ざる理由ありしを以てなり。同役第一軍に於ては、騎兵の軍に専属するするものなきを以て、情報を集收するに、屢々非常の困難を来せり。要するに戦役間の清兵は常に守勢の位置にありて、一地を固守し、絶えて搜索勤務等に注意せざるに拘らず、我が騎兵は、真に耳目たるの任務を尽すに非常の困難を来せり。只軍に属する弊害は、経理給養上多少の不便を免れざると、必要の時機に師団の協力を確実に維持する能はざるにあり。

搜索騎兵を師団に専属せんか、統御並に經理上多少の利益少なからずと雖も、報告常に遅滞し、軍は或は作戦計画を定むる能はざるの悲境に陥ることある可し。且師団に属するときは、警戒勤務の爲め少なくとも騎兵一中隊を要するを以て、独立して搜索騎兵に任ずるものは、僅に二中隊の連隊に過ぎず。此微力なる連隊にして、師団の前面数日行程以上の地境にありて、能く独立して其任務を達し得るや、危殆極めて大なるを以て、任務の成功に就ては、確實ならざる所あり。

世人動もすれば、内国戦を以て常に各兵種の用法を論ずれども、現時の状況上、内国戦の虞おそれは殆ど無きが如し。縦ひ内国戦ありとするも、騎兵の用法は其境域極めて大にして、至る処大集團の襲撃を行う能はざるも、其用途極めて広きは、後

段に至り論ずる所ある可し。

搜索騎兵の軍に属すると、師団に属するとを問はず、勉めて遠く前方にあつて、敵情、地形の報告をなすの必要なは、動かす可からざるの原則とす。是れ軍は前方の状況に就き得る所なければ、作戰計画を定むる能はず。作戰計画定まらざれば、一も命令を下す能はず。殷の鑑み千八百六十六年ボヘムに於ける奥軍にあり。深く戒心せざる可からず。

千八百七十年の戦役に徴するも、普両軍共に搜索勤務上に於て、今日より推究すれば欠くる所少なしとせず。殊に仏国の将兵は驍勇を恃み、搜索勤務を等閑にして、遂に大敗を招けり。

七十年の役普軍は独立騎兵の外、各軍団に警戒勤務の爲め騎兵一旅団、独立歩兵師団に騎兵一連隊を付属せり。然れども軍団或は歩兵師団の警戒勤務に属せし騎兵旅団及び騎兵連隊は、常に本隊の爲め検束さるゝを以て、搜索自由ならず。且非常の激戦に際するも其動作便ならずして、決戦に参与すること能はざりし。之を戦役の実例に徴するも、各軍団並に歩兵師団付属の騎兵が、損傷極めて少なりしをもつて確証となすを得ん。故に近似は軍団歩兵師団に属する警戒勤務の騎兵を減じて、軍の独立騎兵の兵力を増加せんとする傾ありて、平時より騎兵師団を置くに至れり。

以上の理由に依れば、本邦に於ては、搜索勤務は軍に直属する騎兵旅団を基礎とするを良とす。此騎兵旅団は各師団に属する騎兵連隊（内一中隊は警戒勤務の爲め師団に残留す）三或は四個を合せしものとす（九中隊乃至十二中隊）。然れども本邦騎兵操典中には、旅団教練なるものなし。平素に於て教練せざる旅団を戦時に編制し、其成功を期するは、軍隊運用の原則に悖る所なしとせず。此一時は将来に研究すべき問題とす。

搜索騎兵に歩兵を属することは極めて避けざる可からず。是れ騎兵の特質たる速力を全く害するに至ればなり。稀有の場合特に山地に於て、独立師団に属する搜索騎兵連隊の如きは、歩兵の援助を必要となす場合なしとせず。然れども其援助たる歩兵をして、時として非常の危殆に陥らしめ、爲めに歩騎両兵共に殲滅されるの不幸に遭遇するの虞あるを以て、深く考慮せざる可からず。

今や搜索騎兵の要務に就き、我邦の騎兵は如何に動作する可きやを論ぜんとす。搜索勤務の目的とする所は、主として

戰略上の勝利を収得するに在り。故に高等司令部に有用なる情報は悉く之を集収し、高等司令部をして常に理由を審にし、適當の判断をなし、作戰計画を精確に定めしめざる可らず。此勤務の要たる、實に至大至重にして、其服行完全なるを得ば、確乎たる成算を以て作戰する事を得べく、又時機に依じて戦闘を諾するか、若しくは之を避くるも自由にして、有利なる戦闘を擅にするを得べし。若し之に反し情報不完全にして、且確實さらざる時は、暗投冥索、毫も作戰計画を定むる能はず。単にその僥倖を待つのみにして、其成功は断じて期す可からず。此重要な任務をして、成績の良好なることを得せしめんには騎乗卓絶にして体力強健、勇氣慧敏にして、智能ありて且義心の最も高尚なる者を選んで之に任せざる可からず。夫れ搜索勤務にありては、常に上官の監視を離れ、独立して遠大距離に派遣さるゝものなれば、殊に鋭敏輕捷を要するのみならず、至大の勇氣並に氣慨の恃む可きものありて、加ふるに迅速に地形を觀測し、方位を取るに熟し、用兵上の智識ありて、殊に騎乘に長ぜざる可からず。故に現時欧州諸国に於ては、隊中特に選抜騎兵を挙げて、搜索兵なる部班を設け、特別な教育を設くるに至れり。本邦に於ける騎兵は、此等の特別法のみにては、戦時其任務を達する能はず、悉く搜索騎兵の要務に任ずる如く教育せざる可からず。本邦人は伶俐輕捷なるを以て、此方便は決して難きに非ず。馬匹を改良し、現行騎兵法に多少の改良を加へ、其選抜宜しきを得せしめ、其教育に全力を傾注すれば可なり。騎兵に要する費用の大なる点より見るも、戦時に於ける利害の最も影響する所より察するも、此要望は将来に達し得べし。

夫れ然り、然れども兵の教育は三ヶ年より増加することを得ず。如何に教育するも自ら限りあり。且つ情報の確實なる否とは全軍の運命に関するを以て、重要な偵察は將校に任せざる可からず。故に騎兵將校の教育は極めて完全にして、戰略戦術を通じ、軍隊運用の大意に就ては、高等指揮官と同一の明識を具備せざる可からず。騎兵將校は馬術並に軍隊教練に就き、其労働極めて大なりと雖も、毫も姑息の情に拘泥して、軍隊運用の法を研究せしむるを怠る可からず。現時の教育法によれば、此点に就て多少欠くる所あり。

現時に於ては、將校斥候は搜索活動上極めて枢要の機関となれり。古來名將は前面の状況を詳にする為め、特に自己の信任せる參謀將校を前方に派遣し、確實に情報を得るを最も必要とせり。此一事は往時に於ける軍隊運用法に於て、名將の秘

訣とせし所なり。近似著しく軍隊の増加すると、交通の機関具備するに従ひ、昔時の名将の秘訣として用ひし方法は、今日
は陳腐に属し、現時は諸強国一般に騎兵の將校斥候を夥多かたに使用するに至れり。

夫れ軍の作戰計画は、大別すれば戦闘計画、行軍計画、宿営計画の三者に過ぎず。凡て搜索すべは此三計画に如何なる關係を
及ぼすやを研究せざる可からず。然るに欧州諸国にありては、文明の度著しく進歩せるを以て、地図完全にして統計明瞭な
り。故に行軍並に宿営計画を定むるに、非常の困難を生ぜず。故に騎兵の搜索勤務も軍の戦闘計画を定むる為め、敵情を搜
索するを主とせり。亜細亞東部に在つては、二十七、八年戦役に徴するに、騎兵の任務は極めて繁多にして、戦闘計画の為
め敵情を搜索するの外、宿営計画の為め地方の統計偵察を為さざる可からず。行軍計画の為め道路並に交通路の偵察を為さ
る可からず。殊に作戰全般に関する計画の為め地形の偵察をなし、地図の不完全を補足せざる可からず。二十七、八年戦役
間、騎兵將校は偵察の為め殆んど休息するの日は、極めて稀なりし。

今や搜索騎兵の動作に付、其梗概こつがいを論ぜんとす。

搜索騎兵の任務は分つて三とす。曰く搜索、曰く偵察、曰く戦闘是れなり。今一言搜索、偵察の解釈上注意を与へんとす。
搜索と偵察とは相混同すること多く、之を判然区別せんとせば反て害あり。故に余り重きを置かざるを要す。学者は戰略
上一般に関する搜索を単に搜索と謂ひ、戰略上の搜索を尚詳密になすを偵察と稱し、或は戰略上の搜索、戦術上の搜索と呼
ぶ者あり。或は敵情に関する搜索を単に搜索と謂ひ、其他を偵察と謂ふものあるも、此區別は尚戰略と戦術と判然区別し能
はざる如く、或場合に於て、相混合するものと解すべし。要は搜索を広義に、偵察を狭義に執れば可ならん。

搜索及偵察の為め、兵力の多きを望むは習慣上最大弊害とす。蓋し偵察の為めには、將校並に選抜騎兵を用ゆれば動作便
にして、縦ひ優勢の敵に遭遇するも、運動の迅速と動作の軽捷を以て、戦を避くるを得べく、殊に敵地に進入して巧みに情
報を得るには、兵力最も少なきを有利とすればなり。

故に偵察勤務の為めには、極めて多くの將校並に独立下士斥候を派遣するを良とす。其兵力は地形と状況とに応じ、一定
するを得ずと雖も、極めて僅少にして、報告必要なる伝騎のみを以て足れりとす。此諸斥候は、常に後方を顧慮する所なく、

独立して前方に進み、敵と触接を保持し、敵情並に地形の偵察をなすものとす。

偵察上最も緊要なるは、報告の時機を誤らざるに在り。之が為め鋭敏なる戦略眼を以て、迅速に状況を判断し、報告の要点を誤らず、其状況の有する時間に応じ、適當なる報告と簡明なる略図を制する等の事は、最も至難の業にして、最も習熟を要し、戦略上の要点を看破し得るものに非らざれば、決して其任務を完全する能はず。

以上の要旨に依れば、偵察のことは斥候の任務にして、搜索騎兵の本隊は此斥候を派遣するを主として、敵騎を駆逐して其任務の成功を確実ならしむるに在り。故に搜索騎兵本隊の戦闘に關することは、後段戦闘を論ずる時に至り詳述せん。

搜索騎兵の警戒勤務に就き、一の研究を要する所あり。

欧州諸国の原則として規定せる所に依れば、警戒勤務にあるものは、其行軍間、駐止を論ぜず、本軍に近づくに従ひ、逐次に増大せる梯形隊次を取り、其安寧を保つ可しと。故に駐止間警戒勤務の爲めには、概ね左の四線を有せり。

一、騎哨線若くは下士哨

二、小哨

三、控兵

四、前哨本隊

行軍警戒勤務に於ても、概ね左の数線を有せり。

一、搜兵

二、前衛尖兵

三、前衛前兵、側衛

四、前衛本隊、後衛

以上の如く騎兵警戒勤務の規定は、殆んど歩兵と相類似せり。警戒勤務に任ずる各梯隊が本隊に近づくに従ひ、逐次に増大す可き規定は、歩兵にあつては最も適當にして、歩々に地区を防御し、分隊は小隊に、小隊は中隊に、中隊は最も威力を

要する予備隊に收容し、危険なく有力なる抵抗を為し得べし。

騎兵にあつては、之に反し、其騎哨、小哨、控兵たると、其前衛尖兵、前衛前兵、前衛本隊、側衛たるとを論ぜず、一連隊の敵騎迅速に襲撃し来らば、如何にぞ能く之に抵抗するを得ん。忽ち潰散せらる可し。此隣の控兵、側衛は断じて赴援する能はず。後方の本隊は、敵襲の報告を受くると同時に、前方各梯隊の敵騎の爲めに、洪水の氾濫する如く、其頭上に突進せられ、非常なる悲境に陥る可し。故に古來名将は、騎兵を深く訓戒して曰く、

「敵を搜索せよ。敵の襲撃し来るを待つ勿れ。必ず敵を襲撃せよ」

と。又野外要務令に曰く、

「警戒は搜索を以て主要となす」

と。故に独立騎兵の警戒の爲めには、必ず搜索を以てす可し。本隊直接の警戒勤務にある梯隊は我斥候を派遣し、敵の斥候等を抑留するのみにて足れりとす。

騎兵用法の本旨とする所は、必ず前方の搜索を遂げて行軍し、其駐止を爲して安意休息するは、偵察確實にして敵と遭遇するの虞なき時に於てす。若し前面の状況確實ならざるときは、其報告を得るまで行軍せず、休息せず、戦闘を準備して停止するを常とす。

故に騎兵の警戒勤務は、断じて歩兵に準拠す可からず。

本邦の騎兵は少なきを以て、搜索騎兵旅団の前衛は、直接警備の爲め一中隊にても可なり。若し独立騎兵連隊なる時は、いち小隊を以てするも妨げなく、常に主力を大集団となすを良策とす。若し騎兵非常に優勢にして、両軍騎兵の戦闘上勝算を必し難き時は、始めより戦闘を避け、其兵力を分散し、全く正反対の方法を以て、搜索のみを施行するを良とす。

騎兵用法上の事は千変万化殆ど究極あることなし。前述の方法は稍々其両極端に近きものを示せしに過ぎず。

以上の理由に依れば、行軍並に駐止間の警戒勤務は、歩兵の原則に盲従するの不利なることは明瞭にして、近時欧州諸国の大演習に於ける騎兵の用法も、大に前述の主旨に傾向する所あるが如し。

師団の搜索騎兵として、騎兵連隊独立する場合に於ては、少くも一中隊は師団の警戒勤務の爲め残留する必要あり。且搜索並に通信勤務の爲め、概ね一中隊以上の兵数を要するを以て、連隊長の手裏にある搜索本隊の主力は、僅に二中隊に過ぎざる可し。千八百七十年の戦役に徴するも、軍団に属せし騎兵旅団並に歩兵師団に属せし騎兵連隊は、戦闘をなせしこと殆ど稀なり。故に搜索騎兵連隊は、敵情、地形の搜索を専務とし、其決戦攻撃をなすは其任務を完全に達する爲め、最後の手段となすことに、深く意を用ひるを要す。

第二 警戒勤務

欧州諸強国は、概ね搜索勤務に於ける独立騎兵の外、警戒勤務の爲め各軍団に軽騎兵一旅団、独立歩兵師団に軽騎兵一連隊を付属せり。現時に至りては猶ほ之を軽減して、軍の独立騎兵を増加せんとするの傾向あり。

警戒勤務の目的は、本軍をして不意の敵襲を蒙らしめざるにありとは、一般の原則とする所なれども、用兵上より活眼を以て推究すれば、本軍を休養して戦闘力を増加するを主なる要務とす。抑々歩兵は野戦に於て、騎兵の数里先駆して確實なる情報を得たる時、始めて安寧の思想を惹起す。その舎営にありて危険の慮なく静穩に休眠するを得るは、敵兵の猶ほ遠隔して敵襲の患なき時にあり。夫れ戦役間戦闘をなす時日は極めて僅少なるものにして、駐止して休養する時日は戦役間に於て最大なるものとす。名将言へるあり。

「軍隊休養の術は、戦闘よりも難し」と。蓋し至言とす。

慣習の誤は極めて恐るべきものにして、現時に於けるも、前衛、前哨等に夥多の兵員を梯形に配置し、警戒の蔽を求むるもの少しとせず。夫れ軍は日暮迄に其周圍五里以内に敵歩兵のあらざることを確實にするを得ば、安然として休眠するを得

べし。警戒の爲めには、単に敵の斥候、間諜等を防止すれば足りりとす。故に警戒の爲めには搜索を第一の要義となさざるべからず。

我国に於て、各師団の警戒勤務の爲め、幾許の騎兵を付属しむるかは、状況と地形に依じ一定する能はざれども、少なくとも騎兵一中隊を要するならん。蓋し前方にある搜索騎兵は、師団警戒の爲めには毫も考慮する能はざるを以てなり

師団をして安然休養せしめんには、其前方五里に至る地境内を搜索せざる可からず。此任務を達する爲め、騎兵一中隊の力は稍々微弱とす。然れども搜索勤務に要する兵力は減ずる能はざるを以て、今日に於ては、中隊の兵力を以て其任務を遂行せざる可からず。故に警戒勤務に任ずる騎兵中隊は、全く戦闘を避け、人馬の労力の許すを度とし、悉く敵情、地形の偵察の爲めに斥候として派遣し、若し優勢の敵に遭遇せば、後続歩兵部隊の援助を受け、戦闘を避くるを普通とす。

夜間は斥候等必要なるものを除くの外、悉く歩兵の前哨線内に帰來するを良とす。

千八百七十年普軍の騎兵は、警戒勤務の爲め、搜索に最も力を尽せしを以て、常に静穩に休息し、其の戦闘力を十分に貯へしのみならず、行軍力を著しく増加し、其速度三十吉羅以上に達せり。仏国の騎兵は之に反し、共同の動作に乏しく、歩兵常に騎兵と分離し、搜索に力を用ひざりし爲め、非常の困難を來たし、その行軍速度は十五吉羅、即ち普軍の半に達せず。爲めに全軍の集中を遲滞し、戦闘力を非常に減じ、其宿营地は普軍の騎兵の爲め、屢々擾乱せられ、無用の警急集合をなす等、言ふ可からざる悲境に陥りたり。

警戒勤務に属する騎兵は、其他各軍並に各部隊間の連絡を保持せざる可からず。決戦の時機に大軍の能く一地に集合し得るは連絡の確實なるより生ずるものにして、近時欧州諸国大軍を用ゆるに至り、益々其必要を認め、一二の兵家は連絡戦術を研究するに至れり。

警戒勤務に属する騎兵の用務、夫れ此の如く大なり。我騎兵は僅に一中隊を以て、此重責を負担せざる可からざるを以て、平素の訓練に深く意を用ひざる可からず。騎兵は我軍の運動を掩蔽せざる可からずとは一般の原理とす。然れども仮りに隣国に対し、満州地方に於て交戦することあらんか、我騎兵は、実に渺たる蒼海の一粟にして、我運動を確実に掩蔽せんとせ

ば、其主要なる搜索の任務を達する能はず。故に搜索を主とし、掩蔽を第二の任務とす可し。搜索警戒の両勤務に任ずる騎兵は、その任務を達する為め、電信の使用に熟せざる可からず。又鉄道、電信、橋梁等の破壊に任ぜざる可からず。其任務は極めて複雑にして、容易の業に非ずとす。苟も騎兵の員に列するものは、単に勉むるのみを以て足れりとせず、百事に関し非常の考慮を要せざる可からず。

第三 騎兵戦闘

欧州諸強国に於ては、搜索勤務の為め、主として独立騎兵師団、若くは軍団を用ひ、警戒勤務の為めには騎兵旅団を用ゆ。其用法に就ては明確なる區別を立つる能はざれども、独立騎兵師団は後方を顧慮せず、敵搜索に全力を傾注し、軍団に属する騎兵旅団は、敵に対し我軍の運動を掩蔽す。故に其戦法も、甲は攻撃を主とし、乙は守勢に傾く所あり。従て騎兵の種類も異なる所あり。今左に其概略を挙げんとす。

独立騎兵師団は、概ね軽騎兵一旅団、槍騎兵若くは驃騎兵一旅団、胸甲騎兵一旅団（各旅団は概ね二連隊）より成り、其軽騎兵旅団は専ら搜索に任ず。故に其人馬は小にして、動作の軽捷を主とし、其教育も最も搜索、警戒の両勤務に力を尽せり。其槍騎兵並に胸甲騎兵旅団は、人馬共大にして、衝突力の大なるを計り、其教育は襲撃を主要の目的とせり。然れども其任務並に戦闘法に就き、明確なる区分あるに非ず。其教育法も殆ど同一なり。

独立騎兵に於ては、其攻撃の威力を重んじ、槍騎兵、胸甲騎兵を減ぜざるのみならず、欧州諸国に於て、益々之を増加せんと欲する傾向あるは、明確なる理由ありて存するを以てなり。

現時諸強国大軍を用ゆるに至り、益々作戦計画上の困難を来たせしを以て、作戦上の勝利を得るに、最も力を尽すに至れり。騎兵の最大目的とする所は、敵騎の主力を駆逐して、敵よりも速に情報を得るのみならず、敵騎をして我運動を察知し

能はらざしめ、尚進んで敵の作戦計画を妨害し、戦略上の勝利を制せんとするにあり。蓋し欧州諸国に於て、軍隊の訓練並に兵器の進歩は歳月を追うて殆ど同一の進歩に達する傾向なしとせず。然れども作戦のことは、大軍を用ゆる為め益々困難を来し、騎兵をして戦役の始めに、此至要なる戦略上の勝利を制せしめんと希望、極めて大なるを以てなり。此目的を達せんには、敵騎の鋭鋒を避け、偵察のみに力を尽す能はず、騎兵の本務として、敵騎を作戦地境外に驅逐せざる可からず。然らざれば我は敵を搜索するも、敵も我状況を搜索するの不利あればなり。之が為め、敵騎との交戦は、断然避くる能はず。欧州諸強国が独立騎兵の攻撃力を増大せんとするは、前述の目的を達せんが為めなり。

世人動もすれば、騎兵は歩兵に対して昔時の如く勝利を壇にする能はず、胸甲騎兵の如きは、之を廃するに優れるに若かずと云ふものあり。是れ誤れるの大なるものなり。既往の実験により、将来を推究すれば、騎兵は決して歩兵と戦ふを主とするものに非ず。十中八九は敵騎と戦ふものなり。他兵種と決戦を交ふるは、非常の好機に投ずるか、両軍勝敗の決せんとする際に用ゆる所なり。故に唯有形的に平坦なる練兵場に於ける各兵種の戦闘力の優劣を論ずるが如きは、現時の用兵法に適せざるを以て、其利害を研究するの価値を有せざるものとす。騎兵の用途極めて大なるを知らば、何ぞ戦闘場裏の功名に変々として、基本務を誤るを欲するものあらんや。

有形的に於ける騎兵の用法に関する得失は暫く措き、敵軍の恐怖心を惹起じゃっきせん為め、欧州強国に在ては、近時騎兵を戦闘場裏に用ゆるの論再燃するに至れり。其主張する所は、如何に精銳の軍隊と雖も、教育は三年に過ぎず。然るに社会の進歩と人智の啓発に伴ひ、人智開くるに至り、人性の弱点としての恐怖心は益々其度を高めたり。故に騎兵の勇気を旺盛ならしむる為め、無形的に之を使用し、戦闘場裏に於て、銃砲弾に続くに肉弾を以て行進し、全軍を圧倒せんとするにありて、欧州強国に在ては、目下騎兵の勇氣は歳月と共に益々旺盛に赴きたり。

我国の騎兵は、種類一にして軽騎兵とす。騎兵本質の攻撃力、即ち襲撃に於て多少欠くる所なしとせずと雖も、本邦軍制並に国力上より、到底胸甲騎兵の如きものを設くる能はず。槍騎兵と雖も、其利害得失は、用意に決定する可からず。殊に我国の騎兵は種類を分かつときは用兵上の不便少からざるを以て、一種類と定むるを要するは、現時の状況に於て止む能は

ざる所とす。

本邦騎兵は一種類と定むるを以て、其責務は極めて大なりとす。即ち我騎兵は輕重兩種の性質を俱有せざる可からず。之が為め本邦の騎兵は、武器に改良を加へ、槍騎兵の一種となさんとの説あれども、此等の事は利害相半ばし、襲撃に便なれば、搜索に不便を免れず。用意に決定し能はざるものとす。

我国の騎兵を一種類とする以上は、其教育は極めて困難にして、殊に馬匹不良、馬術の不進歩より生ずる困難は更に甚だしきものあり。故に將校下士卒の選任と、其教育法に至大の注意をなさざるべからず。若も此等の事を等閑にする時は、未來戦時の苦難に當つて、断じて騎兵の騎兵たる真形を顯す能はず。

内国戦なると、外国戦なるとに従ひ、本邦騎兵の戦闘法にも、多少の変更を加へざるを得ず。夫れ内国戦にありては、本邦の地形上、騎兵大集團は運用不便なるを以て、各師団に騎兵連隊を付屬するの利益ある場合あれども、亞細亞東部の大陸に於ては、騎兵大集團の運用に便なるのみならず、集團せざれば騎兵は断じて其威力を逞たくましうして軍の耳目たる任務を尽す能はず。故に各師団の騎兵を集合して、軍司令官の直轄に屬せしむるを便とする場合多しとす。

騎兵の戦闘法は分つて二とす。曰く乗馬戦、曰く徒歩戦とす。騎兵の乗馬戦に就ては、其原則は操典に詳悉し、其要求する所極めて大にして、殆んど欧州諸国に於て独立師団に要求する所と異なる所なし。他日操典に就て研究すべしと雖も、その要旨を約言すれば左の如し。

騎兵の戦闘力は分散することを避くべし。敵を攻撃すべし。必ず敵より攻撃せらるゝ勿れ。

一般の状況並に敵情、地形の搜索を尽したる後攻撃す可し。

運動は極めて單一なる方法を選用し、最捷路を取り、敵に赴く可し。

攻撃は敵の不意に出づるを努む可し。

襲撃の際は、其結合最も堅固にして、其敵に赴くの鋭氣強盛にして、恰あたかも墻壁の如くなる可し。

常に予備隊を蓄ふ可し。

騎兵の大集団を用ひて戦場の勝利を求む可し。

勝利を得し時は、之に次ぐに猛烈なる追撃を以てす可し。

以上は騎兵の遭遇戦に於ける要旨とす。近時に於ける欧州諸国の新操典も、概ね同一の要旨にして、事実を証明して熱心に攻撃を奨励せり。故に欧州諸国の将兵は、其勇氣実に全軍を圧倒する傾向あり。

現時本邦の馬匹の状況より正当に判断すれば、以上の要求は極めて至難にして、精熟の騎兵に対しては、多くの欠点を免るゝ能はず。従ひ全力を傾けて其進歩を企図するも、騎兵戦闘力の主因たる人馬の体尺を増大して、其衝突力を増加することは、一朝一夕の能く為し能はざる所なればなり。

然らば本邦騎兵は、熟練の敵騎に対し、戦闘を避くるを利とするか。然るときは敵は最捷路を取り、我軍の状況を速やかに搜索し得るも、我騎兵は甚だしき迂回をなし、戦略上の勝利を全うする能はず。然らば如何にして可なるか。軽騎兵の戦法を特に定むるより他に道なきものとす。

軽騎兵の有利とする所は、動作の軽捷にあり。故に教育其宜を得ば、決して患ふるに足らざるなり。欧州諸国に於て、軽騎兵の重騎兵に対するを見るに、常に軽騎兵は正面上の衝突を避け、側面或は側背より動作し、其欠点を補へり。運用巧にして地形利用宜しきを得、其特質たる軽捷の動作を發達すれば、敢て恐るゝに足らざるなり。之を實例に徴するに、軽騎兵は古來戦闘に参与して重騎兵と同一の偉功を奏せり。欧州諸国に用ゆる独立騎兵師団以上の大集団に在ては、運用困難にして地形の利用も容易ならず。寧ろ攻撃を奨励すれども、本邦の騎兵は集団するも旅団にすぎず。故に攻撃を奨励すると同時に、其特質を養成し、殊に其本性たる偵察を迅速にし、不意に敵を急襲することに深く意を用ひざる可からず。

騎兵の攻撃は白兵攻撃、即ち襲撃の一あるのみ。故に其戦闘法は極めて単純なれども、実地上の教育は極めて困難にして、實地に於て十分訓練せしものに非れば、其威力を逞うする能はざるなり。古來驍勇を以て名ある騎兵は多くは実歴経験に富むものにより。深く注意せざる可からず。騎兵の徒歩戦に就ては、論議極めて多くして、欧州諸国に於て未だ確定せざるものゝ如し。而して多くの場合に於て、徒歩戦は常に防御なりとす。

騎兵の徒歩戦に就ては、歩兵に準拠せず、成るべく其本務を害せざる為め、教育を単簡にし、其戦闘法は短時間に成功し得る如く、戦闘の初期より多くの兵数を使用するものなれば、動作の迅速と、地形の利用と、射撃の精熟を主として、決して其他に及ぼす可からずとは、一般の定論なるが如し。我国に於ける徒歩教練は、大に歩兵に類似する傾向ありて、教育上時日を徒費する虞あるを以て、深く其要点に注意する可からず。

騎兵の徒歩戦を以て敵の縦隊を射撃し、敵をして展開せしめ、其兵力を偵察し、或は行進方向を変ぜしめ、其集結を妨げ、其行進を滞遅せしむることは、欧州諸国並に本邦の操典にも明示する所にして、徒歩戦を主張する論者は、最も此点に重きを置けり。其要旨に曰く、

行軍縦隊が暑氣酷烈行進久しきに渉る時は、軍隊は著るしく倦勞^{けんろう}す。行軍の末途に於ける歩兵縦隊の困難は極めて大なるものにして、其警戒も疲労の為め不確實なりとす。此時に当り、縦隊の頭上に一声放火の連続雨下するあらんか、多くの兵卒は斃れ、縦隊は行進を止め、危険なる方向に面し夥多の斥候を派遣して、漸くにして敵騎兵中隊の遠く千米突許りの森林中にあるを察知し、さらに歩兵一中隊を派遣して、之を撃退せしめんとすれば、其行進途中の敵騎は去つて在らず、更らに行進を連続せんとすれば、縦隊の中央に又敵騎より同一の射撃を受く。夫れ此の如くなれば歩兵は如何に勇敢なるも、弾丸飛下の為めに停止して、一部隊を展開するの已むを得ざるに至らしむ。従ひて其兵力を偵察し、行軍を遅滞し、行進方向を変ぜしむるの利益あるのみならず、敵をして危険を抱き、奔命に勞せしめ、其戦闘力を減ぜしむるを得べし。

と言ふにあり。之が為め実例を挙げ、確証を示し、騎銃の精巧を理容師、徒歩戦を乗馬戦と同等の位置にあらしめんとし、甚だしきは騎兵の遭遇戦に於ても、徒歩戦を有利と論定するものあり。此等のことは、従来の戦術並に近時に於ける大演習に於て、屢々見る所なれども、多くは特別の場合に属するもの多きに居るが如し。

優勢の敵騎に対し、勝算を必ず可からざる時は、敵騎の襲撃し能はざる地形に拠り、徒歩戦を行ふを有利とする場合なしとせず。欧州諸国の大演習に徴するも、軽騎兵は胸甲騎兵に対し、徒歩戦を利用する場合多しとす。

以上の研究に依れば、徒歩戦を騎兵戦闘の本務となす能はざることは明瞭なれども、決して軽視す可きものにあらずして、

之を用ゆる場合少なしとせず。独立騎兵の宿营地防御等には、常に徒歩戦を用ひざる可からず。

故に本邦騎兵の徒歩戦を、前述せる一般の要旨に基き、極めて単簡なる教育法により、動作の迅速と、地形の利用と、射撃の精熟のみに注意し、毫も其他のことに及ばざるを良とす。戦闘場裏に毫も利益なき騎兵の徒歩運動は悉く之を排除するを必要とす。

今や騎砲兵（速射機関砲隊）の事に付、其概要を論ぜざる可からず。

欧州諸国に於ける独立騎兵師団に、概ね騎砲兵を付屬せざるはなし。其多きは位置大隊（三中隊）、其最も少きは一中隊にして、状況に依り、屢々変化一ならずと雖も、騎兵の威力を増加し、其任務を達する為めに効力大なるを以て、騎砲兵を附加することは一般の定論なるが如し。騎兵の徒歩戦を用ゆる際は、騎砲兵を以てすれば、其威力更に大なりとす。故に本邦に於ても各騎兵連隊に騎砲兵を編入し置くときは、戦時に方り独立騎兵旅団に屬するも、各独立騎兵連隊に分屬せしむるも、必要な場合は、師団砲兵に編合せしむるも自由にして、毫も弊害あることなし。近時砲兵は著しく進歩せるを以て、之を増大する事は必要にして、騎兵と雖も之を妨害物として擯斥するは、策の得たるものにあらざるべし。此一事は特に研究すべき問題とす。然れども現時の状況上、此の如き騎砲兵を編成するの機運に達せず、又国力上騎兵を増加すること能はずとせば、速射機関砲を以て、騎兵の威力の足らざる所を補ふは、蓋し必要ならん。

第四 挺進騎兵

挺進騎兵は北米南北戦争於て其名譽赫灼たるものにして、此戦争に於ける騎兵大集團は、本軍と全く離隔し、不羈獨立して、突然敵の側面に出で、或は其背後に頭はれ、後に忽ち形を隠し、跡を晦し、以て他の敵軍を襲ひ、其出没変幻極りなくして、本軍の士気を振張し、其危険を救援し、敵軍をして殆ど決戦に先だち、其戦闘力を失はしめたり。挺進騎兵の効力を

主張するものは、常に千八百七十年の役、普軍騎兵が敵軍の中心に侵入しガンベッタが二十万の兵を集合せんとする動員及新設隊の編成を妨害せざりしを深く非難するものあり。然れども挺進騎兵は徒に基華ふけに耽ふけらず、其害を取ることに深く注意せざる可からず。

南北戦争に於て、挺進騎兵の偉功を奏せし所以のものは、内国戦なるを以て地方人民の応援を得ること容易にして、糧食の補充等に就き、著しき困難を感じざりし為めなり。将来と雖も、内国戦、同盟国、中立国若くは敵国の人民我軍に同情を表する場合には、大集団に於ける挺進騎兵の効力決して無しとせず。然れども敵地にあつては極めて困難にして、大集団に於ける挺進騎兵は、敵国に侵入するも土民の反抗あり、衛戍地には残留せる守備兵ありて、弾薬、糧食の補充は容易に受くる能はず。

千八百七十年の役、普軍の独立騎兵も本軍と連絡せずして、軍の前方三日行程ほど以上の地に在りしときは、弾薬、糧食の補充、病者の救護等に非常の困難を来し、十分に活動することを得ざりし。

欧州諸国に於て、挺進騎兵に就き、論点の岐る所は二つに過ぎず。甲は敵騎を駆逐したる後、騎兵の大集団を以て敵地に侵入し、敵の作戦計画を妨害せんとするにあり。乙は騎兵の大集団は敵地に在つては運用困難にして、糧食、弾薬の補充容易ならず。殊に国境の衛戍地は敵騎の侵入を防ぐ為め、近時に至り守備兵を多く残留するを以て、寧ろ動作の容易にして軽捷なる騎兵中隊の如き小部隊を多く派遣し、巧に手段を運らして鉄道、電信、橋梁等を破壊し、敵地の宿駅、兵器其他の諸倉庫、停車場、通信局等を焼夷し、敵の作戦計画を害せんとするにあり。即ち其運用法上に於ては、多少異なれども、其本勢たる搜索、警戒並に通信動勢に妨げなき時は、之を用ゆるを利ありと決定せるが如し。

我国の騎兵は少きを以て、大集団に於ける挺進騎兵を用ゆる能はず。然れども小部隊に於けるものは、内国戦は論なく、外国戦と雖も余力あるときは、歩、砲兵の決戦場裏に参与するより、其効力大なるを以て、使用する場合少しとせず。故に其用法に最も意を用いざるべからず。

挺進騎兵の動作は分つて二とす。曰く戦略上の動作、曰く戦術上の動作、是れなり。

戰略上の動作とは、本軍と全く独立して、数日行程以上敵地に侵入し、糧を其地にとり、鉄道、電信の交通を絶ち、兵站線路を脅威し、宿泊所、兵器庫、製作所其他の諸倉庫、並に縦列を焼夷し、敵の作戦計画を妨害するを謂ふ。当時欧州諸強国の作戦計画は、細密、迅速、巧妙を以て計画の本旨となすを以て、一鉄道、一通信所を破壊せらるゝも、其關係大なるを以て、或場合には、騎兵は搜索勤務よりも、挺進を以て有利と論ずるもの多し。

戦術上の動作とは、本軍決戦の時機に至るまでは、概ね其本務たる搜索、警戒勤務等に服し、戦闘の際には敵の背後に迫り、道路、橋梁を破壊し、弾薬、糧食縦列等を焼夷、若くは略奪し、主として敵の背後を擾乱じゆうらんする動作を謂ふ。

近時に至り欧州諸国の騎兵に於て、強行軍に最も意を用ゆるも、其一原因は、挺進騎兵の効力を増進せんとするにあるが如し。然れども挺進騎兵の動作は、多くは危険にして損傷を免れず。然れども戦例に徴するに、挺進を用ひ全滅せしことなく、且つ大胆に之を使用したるも其損害比較的少し。併し本邦騎兵は其兵力微弱なるを以て、其用法に注意せざる可からず。殊に軍にして騎兵を多く失ふときは、其害毒極めて大にして、全く盲戦を為すの不幸に陥らしむ。故に全軍の将来に於ける利害を深く考慮し、乱用に陥ることなきを要す。

結論

本邦騎兵用法上の大要は、前段既に述ぶるが如く、其範圍極めて大にして、如何なる名将も、其多きを憂へざる可し。然れども不完全の騎兵は全く其用をなさざるを以て、殊に其精熟を期せざる可からず。本邦の騎兵は、創立極めて遅くして百事に關し欠点極めて多く、其最要武器たる馬匹は不良にして、鋭意改良をなすも百年の事業とす。其馬匹も騎乗に長ずる將校ありて、鋭意調教するも概ね十年を経ざれば、中隊の馬匹を完全にする能はず。

欧州強国に於ても、昔時は騎兵の行軍力は三十吉羅に過ぎざりしが、現今に至り五十吉羅に達し、其將校斥候は百吉羅以

上を行進するに至れり。昔時騎兵は襲撃の爲め、僅かに八百米の距離を速歩、駆歩にて通過するを以て足れりとせしが、現時は七千米突余の距離を速歩、駆歩にて通過し、尚戦闘力を有するを必要とするに至れり。然れども欧州諸国の馬匹の状態は、昔時と異なるなくして、活用力前述の如く増大せしは、独り調教、強健法に力を尽したる点に他ならずして、訓練の恐るべき、蓋し此点にあり。

本邦の騎兵は鋭意人馬の訓練に力を用ゆるも、目下の状況にては、其行軍力をして四十吉羅（十里）、將校斥候を八十吉羅（二十里）に達せしむるを以て度とし、襲撃の爲めにも、速歩、駆歩を以て通過する距離は、五千米突を越ゆべからざるべし。現時の馬匹は不良と雖も、調教、強健法に注意せば、以上の要求には応じ得るものと認むることを得べし。

夫れ馬匹の實力、即ち持久力、速度、抵抗力、負担力を増大するは、騎兵に関する極めて必要の問題とす。本邦の馬匹は持久力、速度、負担力に於ては、欧州諸国の馬匹に劣る所ありと雖も、単に抵抗力、即ち寒暑に堪へ、戦時に於ける百戦の欠乏に堪ゆる力に至つては、遼東並に台湾の戦役に於ける実験に於て、甚だ劣らざるを知れり。

以上の事は本論の趣旨に非ざれども、騎兵として絶えず馬匹と馬術は、念頭に置かざるを得ず。故に騎兵將校以下の任務の困難を察し、茲に一言するものなり。

騎兵として主として恃む所は、体力と馬力にあり。戦時騎兵將校は高等の位置に進むに従つて、馬術即ち騎乘に巧みにして、勉励の度を増さざる可からず。換言せば騎兵將校は、体力強健、騎乘に長じ、職務に勉励ならざる可からず。故に騎兵隊長は以上の要旨を以て、部下に率先して之を誘掖せざるべからず。

本邦の騎兵は現時の国力上、容易に其数を増加する能はず、又其馬匹は僅少の歳月にして、其完良を期する能はず。其欠点を補はん以下士卒を精選し、教育を進歩せしむるより他に道なしとす。教育上の一点に就ては、其方法宜しきを得ば、決して他国の騎兵に劣ることなかる可し。此一事は甚だしく国費を要せずして為し得るものにして、決して難きにあらず。教育完全なれば他国の騎兵と相對してその欠点を補ひ、其効力を発揚するに就て、遜色あることなかる可し。

現今に至り、騎兵は高等司令部並に他兵種と密接の關係を保たしめざるべからず。夫れ用兵上の要訣は、各軍、各団隊、

各兵種の協同一致にあり。之がために騎兵は真に最要機関たり。故に名將は最良の參謀將校を得るよりも最良の騎兵將校を得るを難とす。従つて其名譽も大にして、戦史上其功績の赫々たる所以なり。

欧州諸国に於ける騎兵將校の品位は、參謀將校より高き所にあるは、蓋し理由のありて存するなり。本邦に於ける現時の状況は、一般の氣運以上の方針に向かふ能はずして、此点に就て欠くる所なしとせず。若しも其任務上の真目的を誤るときは、騎兵は全く無用の長物に過ぎざるを以て、平素の教育並に其用法上に就ては、深く考慮せざる可からず。